

タイトル：医療通訳者が直面する困難－役割と動機についての語りから

Title : Conflicting Roles and Motivations Faced by Medical Interpreters from their Perspectives

発表者：灘光洋子（立教大学）

Presenter : NADAMITSU Yoko (Rikkyo University)

キーワード：医療通訳者、ボランティア、役割、動機、

Keywords : medical interpreters, volunteer, roles, motivations

本発表は、医療通訳における問題について、通訳者自身がどのように捉えているか、その現状を把握することを目的に行ったインタビュー調査結果(灘光, 2008, 2011; Nadamitsu, 2011)から、特に役割と動機についてそのアンビバレントな立場と絡めながら取り上げる。医療通訳者の声を通して、人材確保の難しい現状について考える機会としたい。

1 医療通訳者へのインタビュー調査

関東地方にある NPO の協力を得て、そこから派遣される医療通訳者に、立場、役割、動機や、通訳の正確性、コミュニケーションの阻害要因などについて半構造化インタビューを行った。通訳者の担当言語は、英語（3名）、ポルトガル語（3名）、スペイン語（3名）、タイ語（3名）、中国語（2名）、韓国・朝鮮語（1名）、ベトナム語（2名）、タガログ語（2名）であった。計 19 名の協力者のうち、女性 18 名、男性 1 名で、日本人は 10 名、当該言語母語者は 9 名であった。医療通訳者としての経験年数は 1 年未満から 10 年以上。インタビューの対象となった通訳者は全員 NPO の医療通訳研修を受講し、派遣登録のためのスクリーニングを経ている。調査期間は、2007 年 8 月から 2008 年 3 月までの約 8 ヶ月間であった。インタビュー時間はひとり 1～2 時間程度。インタビューは録音、文字化し、データ分析には Strauss & Corbin (1990) のコーディング方法を用いた。

2 インタビュー調査の分析結果

(1) 医療通訳者のアンビバレントな立場

対象となった通訳者がボランティアとあって差し支えない立場だということは、彼等の抱える問題を考える上で重要である。「ボランティア」には「プロ（フェッショナル）」という言葉の持つ有資格、報酬の保障といった意味合いはなく、善意の有志という響きが極めて強い。インタビューでは、自分たちの微妙な立場に関するコメントが相次いだ。(1) 報酬や身分が確立していないため「プロ」とは言えず、(2) 助けたいという気持ちが根底にある「ボランティア」であり、(3) 経験や研鑽により、知識や技術の面では「アマチュア」とは明らかに異なる域に達することはできる（また求められる）が、明確に「プロ」のレベルとは言い難い、(4) それにも関わらず、患者の健康や命に関わる者として「プロ」なみの重責を担っている通訳者の姿が浮かび上がる。「プロ」と「アマチュア」の二項対立的な単純構造では捉えきれない「ボランティア」像がそこにはあった。

(2) 医療通訳者の役割

多くの通訳者から、医療者と患者との仲介人として、「正確に伝える」ことが役目とする発言があった。感情移入をせず、医療者とも患者とも心理的距離を保ちながら、「ピンポン球のように」訳すことで誤解を最小限にすることを使命とする姿勢を指摘する一方で、相互理解のためにはその場の雰囲気を読み、当事者の意図をできるだけ汲み取る「コ

コミュニケーター」としての役割が欠かせないとする声も多く聞かれた。更に、通訳者の仲介人としての役割について、発言は「診療室の外」にも及び、健康を害し言葉のハンディもある外国人患者の不安を和らげ、話し易い雰囲気を作る「カウンセラー」、保険や医療費など医療制度についての関連部署への紹介やソーシャルワーカーと連携する「相談窓口」としての重要性も強調された。

(3) 医療通訳を続ける動機

動機が一つだけというケースはなく、「人の役に立つ」との思いは全ての通訳者に共通していた。「人助け」を支える要素として、「感謝される喜び」、「能力が役に立つ」、「正義感」、「勉強になる」、「患者への共感」が抽出された。患者から感謝されることが何よりの励みになると述べた通訳者は多い。また、自分の能力を医療通訳に要求される専門性に生かすことに金銭的な尺度では測れない意味を見いだしている点は特記に値する。困っている外国人を何とかしなくてはならないという正義感が原動力となっているケースがある一方で、外国語能力が強化でき、人助けにもなるという一石二鳥の効果を期待する通訳者も複数見受けられた。同胞人への共感から関わっている人もいれば、長期海外滞在の経験がある日本人からはお世話になった国の人たちへの感謝が患者への共感に結びつき、動機となっているという声も聞かれた。

3 通訳人材確保の持続性について

「ボランティア」という呼び名からは医療通訳者に課せられた専門性や責任が見えにくい。付随する「善意の人」というイメージは、周囲からの過度な期待や無理解を生むだけでなく、通訳者自身に自己犠牲の内面化を強いる可能性もある。行政側にとっては、目の前の問題をとりあえず解決してくれる安価で便利なマンパワーとも言える。複雑な役割を担う医療通訳者達が、決して楽とはいえない現場に関わり続ける原動力の根底には人の役に立ちたいという気持ちがある。しかし、彼らが得る精神的また実質的「利益」と要求される仕事の「質」「量」のバランスが取れなければ、活動を継続することは難しい。ボランティア活動である以上、そこにかかる強制力が比較的緩やかであることを考えるとなおさらだろう。インタビュー調査の通訳者 19 名のうち、2016 年現在も活発に活動を続けているのは 11 名という。医療通訳の社会的認知度を高めると共に、運営、育成、制度の更なる検討が望まれる。

【参考文献】

- ・ 灘光洋子、2008「医療通訳者の立場、役割、動機について—インタビュー調査をもとに」『通訳翻訳研究』8号、73-95頁
- ・ 灘光洋子、2011「医療通訳者のアンビバレントな立ち位置について—インタビューをもとに」成蹊大学文学部学会編『異言語と出会う、異文化と出会う』風間書房、3-46頁
- ・ Angelelli, C.V.、2004a. *Medical Interpreting and Cross-cultural Communication*. Cambridge, Cambridge University Press
- ・ Nadamitsu, Y.、2011. *Communication barriers in interpreter-aided medical care for foreign patients in Japan*. *Multicultural Relations* 8, pp.65-83
- ・ Strauss, A., & Corbin, J.、1990. *Basics of Qualitative Research, Grounded Theory Procedures and Techniques*. Newbury Park, CA:Sage

- Wadensjö, C., 1998, *Interpreting as Interaction*, New York: Addison Wesley Longman Inc.